

伺ノ趣聞届候事

會計検査院へ通牒

第五編

第五編 第七
五月十二日
全十三頁

○愛知縣士族加藤幾造要償金及利金下附ノ申報
開拓長官申報ニ曰曩ニ愛知縣士族加藤幾造ヨリ出訴
ニ及ヒシ稻田邦植營繕廢止ニ付テノ要償金及利金
共別途交附ノ儀本年三月甲第六号ヲ以テ經伺ノ上
大藏省ヨリ該金額領受即日同人へ下附シタリ依テ
下命ノ通計算書進達ニ及フト計算書
畧之
部議本件要償金及利金下附濟ノ趣キニ付不都合無之
モ、ト認メ高覽ニ供ス

會計検査院へ通牒

第十三 地租改正事務局之部

第四五編

第四五編 第四
三月八日
全十三頁

○地租改正滿期處分ノ稟議

地租改正事務局總裁稟議ニ曰地租改正ノ事タル固ヨ
リ重要至大ノ業ナリト虽モ明治六年改正法ノ頒布
アリテヨリ今ニ至ル迄六閱年ニシテ僅ニ一二ノ縣
ヲ除クノ外全國既ニ整齊ニ至ル然レモ各地民情慣
例ノ異同アルヤ改租ノ成績上ニモ自ラ多少ノ異同
アリテ猶ホ充分ノ平準ヲ得タリトモ蓋シ元來該
事業ノ困難ナリト封建制度ノ餘弊ニ因リテ一回ノ
調査ニシテ直ニ完全ノ域ニ達セサルモ敢テ答ルニ
足ラス然リト虽モ數回ノ調査ハ民心ノ歸向如何ニ

閉スルヲ以テ苟クモ其緩急ノ時機ヲ愆ルハ平準
ヲ要ムル厚意モ却テ怨嗟ノ媒介タルヲ保テ難ク且
租額常ニ變換スルハ官民共ニ其煩冗ニ苦シミ到
底得失相償ハサルニ因リ明治七年五月第五十三号
ヲ以テ五ヶ年間地價据置ノ公布アリタリ而シテ方
今既ニ公布ノ期限ニ至ルヲ以テ更ニ第二回ノ大調
査ヲ為スヘキヤ否ヲ確定シテ一般ニ公布セサルヲ
得サルノ時機ニ迫レリ因テ思惟スルニ第一此五周年
間ハ改租ノ事業整理ノ為メニ經過シ人民未タ安息
ニ違アラサルヲ以テ今再調査ノ舉アラハ改租ノ々
メ民間ニ寧日ナカラントス第二明治六年頒布スル
所ノ改正條例ハ當時改正ヲ舉行スルノ急且要ナル
情勢止ヲ得ス封建ノ遺物タル檢見法ヲ廢シテ地價

ニ就テ收稅スルノ新法ヲ興シ專ラ人心ノ感覺ヲ新
ニセントヲ旨トシ之ニ因テ今日遂ニ改正ヲ了成セ
ントス然リ而シテ制度法律漸ク改良整備ニ至リ且
創興ノ事業既ニ大成シタルノ後之ヲ修補更正セン
トスルノ今日ニ在テ該條例ヲ熟視スルハ尠ニ條
目ノ不備不明ナルヲ覺ユルノミナラス改正ノ主義
タル地價ニ就テ收稅センヨリ寧ロ各國普通ノ收穫
ニ就テ收稅セントノ稍妥當簡易ナルヲ知ルト虽且
今俄カニ之ヲ改正スルハ却テ民心ノ疑惑ヲ生ス
ヘキヲ以テ暫ク之ヲ保守シテ將ニ不日租額上ニ幾
分ノ減少ヲ為ヌヲ得ヘキノ時機ヲ俟テ改定シ以テ
十年乃至十五年ノ數年中ヨリ豊凶ノ極度則チ米價
高低ノ極度ニ該ル若干年ヲ除去シテ定メタル收穫

高ニ就テ課税シ以俾其年数中据置クト為サハ實
ニ地租上ノ改良完全ニ至ルヘシ第三明治六年改正
條例頒布以降米價漸次騰貴ニ至リシモ仍ホ若干年
間地價据置キ納税上ニ於テハ依然改正年時ノ低價
ヲ用ユルトトヤハ兼テ民ニ休養ヲ與フルノ聖旨ニ
モ協ヒ實ニ今日施政ノ得策ト云フヘキナリ然リト
虽氏地方ニ因リテ改租ノ際苦情百出徃々再調査ノ
期限ヲ諭示シテ改正ヲ終ヘ方サニ再調査願請ノ情
状ヲ表スルモノアリ斯ノ如キ地方ニ對シテハ宜シ
ノ特別ヲ以テ多少ノ修正ヲ加ヘ當初改正ノ際生シ
タル不公阜ノ太シキモノヲ矯正スヘキナリ以上ノ
理由ヲ旨トシ左ニ布告案ヲ起草シ至急閣裁ヲ仰ク
ト

部議稟議ノ趣成案ノ通ニテ聽許セラレ然ルヘシト左案ヲ附
シ上陳ス

御布告案

成案ノ通

元老院へ御下議案

議定例文

地租改正事務局へ通牒

例文

本件裁可ノ上本年五月廿日第二十五号ヲ以テ布告
セララル

第二十六號 高ニ就テ課税シ以俾其年数中据置クト為サハ實
四月廿七日受領
五月三日稟申
五月廿五日裁可

○愛媛縣下市街地塩田製塩場等改租ノ申報